

ホームへ

第3編第2章 生活圏の調査と地域の展望

導入

本文ページ

まとめ

用語解説

書名入る > 第3編第2章 生活圏の調査と地域の展望

206ページ

読み上げ音声47 (p.206～207)

別紙 32-1 に同じ

206ページ

リンク
今昔マップ on the web

208ページ

読み上げ音声48 (p.208～209)

別紙 32-1 に同じ

208ページ

リンク
ハザードマップポータルサイト

208ページ

リンク
地理院地図

208ページ

リンク
統計ダッシュボード

208ページ

リンク
国立国会図書館デジタルコレクション

208ページ

リンク
リサーチ・ナビ

210ページ

読み上げ音声49 (p.210～211)

別紙 32-1 に同じ

212ページ

読み上げ音声50 (p.212～213)

別紙 32-1 に同じ

213ページ

映像
MANDARAの操作方法

別紙 37-1

地理情報分析支援システム MANDARA10

MANDARA10

対応OS : Windows 7/8/8.1/10
最新バージョン : 10.0.0.7

- 2018年3月、MANDARA10（テン）正式版が出ました！
- エクセルで作成した地域統計データを地図化することに対応した無料のGISソフトです。
- 幅広いユーザー層を持ち、地図を使って分析を行うさまざまな分野で利用されています。
- 市町村別等付属の地図データのほか、シェープファイルやKMLファイルからデータを取得できます。
- 塗りつぶしや記号、グラフ、等値線など多彩な表現方法でデータを地図化できます。

フリーGISソフト
MANDARA10入門
かんたん！オリジナル地図を作ろう

フリーGISソフト
MANDARA10パーフェクトマスター

MANDARA10

MANDARA10

MANDARA

統計地図の重ね合わせ

新着情報

2019/8/19	エラー情報を更新しました。
2019/8/12	バージョン10.0.0.7を公開しました。
2019/7/30	エラー情報を更新しました。
2019/5/19	バージョン10.0.0.6を公開しました。
2019/4/16	エラー情報を更新しました。
2019/2/20	バージョン10.0.0.5を公開しました。
2019/2/20	エラー情報を更新しました。
2019/1/13	エラー情報を更新しました。

[ホームへ](#)

書名入る

第3編第2章 生活圏の調査と地域の展望

[導入](#)

[本文ページ](#)

まとめ

[用語解説](#)

[書名入る](#) > 第3編第2章 生活圏の調査と地域の展望

読み上げ音声 第3編第2章本文ページ (p.206～213)

→別紙 32-1 に同じ

[ホームへ](#)

書名入る

< 第3編第2章 生活圏の調査と地域の展望 >

導入 >

本文ページ >

まとめ >

用語解説

デジタル用語解説「シオ・ワード600」

→別紙 6-1 に同じ

[書名入る](#) > 第3編第2章 生活圏の調査と地域の展望

ホームへ	書名入る		
< 巻末・リンク集 巻末資料 リンク集 用語解説 書名入る > 巻末・リンク集	222ページ	思考問題セレクション ジオ・トレ vol.1・2 《解答編》	 ➡別紙 40-1
	222ページ	思考問題セレクション ジオ・トレ vol.3・4 《解答編》	 ➡別紙 40-2
	222ページ	思考問題セレクション ジオ・トレ vol.5・6 《解答編》	 ➡別紙 40-3
	222ページ	思考問題セレクション ジオ・トレ vol.7・8 《解答編》	 ➡別紙 40-4
	222ページ	思考問題セレクション ジオ・トレ vol.9・10 《解答編》	 ➡別紙 40-5
	巻末1	日本の白地図データ	 ➡別紙 40-6
	巻末2	映像 ジオ・ラボ 実験 1 ①	 ➡別紙 40-7
	巻末2	映像 ジオ・ラボ 実験 1 ②	 ➡別紙 40-8
	巻末3	映像 ジオ・ラボ 実験 2	 ➡別紙 40-9
	巻末3	映像 ジオ・ラボ 実験 3	 ➡別紙 40-10
	巻末4	統計クイズ（農産物）	 ➡別紙 40-11
	巻末9	統計クイズ（鉱産資源）	 ➡別紙 40-12
	巻末9	統計クイズ（国の判別）	 ➡別紙 40-13
	巻末10-11	地図クイズ	 ➡別紙 40-14
	巻末10-11	世界の白地図データ	 ➡別紙 40-15

思考問題セクション

ジオ・トレ vol. 1

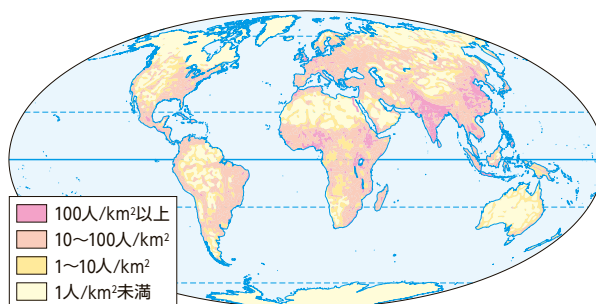
第1編 第1章 地図と地理情報システム

教科書 p.12~13

解答編

正答：⑥

Aはモルワイデ図法であり、面積が正しく表現されている地図(正積図)である。地球規模での人口分布や、貿易などの流動を示す際、実際の面積と異なる図で作成すると、実際とは異なった印象を与えてしまうため、分布図や流線図は、モルワイデ図法などの正積図で表現する。よって用途ウに適する。

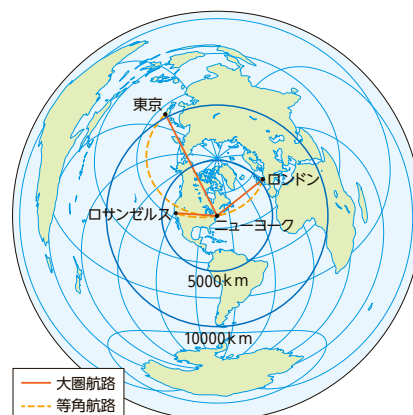


人口密度をあらわしたモルワイデ図法の世界地図

Bはメルカトル図法であり、緯線と経線が直交し、2地点を結ぶ直線と経線との間にできる角が常に一定となるように作成された地図(正角図)である。2地点を結ぶ直線と経線との間にできる角が一定になる航路を等角航路(等角コース)といい、メルカトル図法上では、等角航路は直線で示されるため古くから航海図として利用されてきた。よって用途イに適する。等角航路は、大圏航路と重なる赤道上や経線上を除いて、最短経路ではないことに注意しよう。



Cは正距方位図法であり、中心から任意の地点に対して距離と方位が正しく表現されている地図(正距方位図)である。中心から引かれた線はすべて最短経路(大圏航路・大圏コースという)となり、中心から任意の地点までの距離を調べることができる。よって用途アに適する。正距方位図法では中心以外からの距離と方位は正しくないことに注意しよう。



思考問題セクション

シオ・トレ vol.3

第1編 第2章 資料から読み取る現代世界

教科書 p.40～41

解答編

正答：⑥

アは、2010年代以降、旅行支出が大幅に増加し、旅行収入を大きく上回っていることから、中国である。中国は、旅行支出が世界1位の国で、1人あたりの旅行支出額も多い。

イは、全体の規模が小さく、2015年以降、旅行収入が旅行支出を上回り、旅行収支が黒字になっていることから、日本である。1985年以降、円高や週休2日制の導入によって、旅行支出が旅行収入を上回り、旅行収支は赤字であったが、2015年以降は、円安やLCC(格安航空会社：Low Cost Carrier)の就航の増加、ビザ(査証)要件の緩和などによって、経済発展著しい東アジアや東南アジアからの観光客が増加し、旅行収入が旅行支出を上回り、旅行収支は黒字に転換した。

ウは、旅行支出も多いが、旅行収入のほうが多いことから、アメリカ合衆国である。アメリカ合衆国は、旅行収入が世界1位(2021年)の国である。

Aは、北に位置する国・地域からの旅行者数が多いことから、ヨーロッパや東アジアの日本、中国、韓国からの旅行者が多いアメリカ合衆国である。アメリカ合衆国は、北に位置するカナダや南西に位置するメキシコのUSMCA(旧NAFTA)加盟国のほか、北東に位置するヨーロッパや、太平洋を挟んで1万km以上離れた東アジアの日本、中国、韓国からの旅行者が多い。

BとCの日本と中国は、いずれも近隣の東アジアや東南アジアからの旅行者が多く、やや判定しづらいが、Bは東に上位国がないことから、太平洋に面し、東に位置する国からの旅行者が上位国にない日本である。一方、東にも上位国が2か国あるCは、日本と韓国が上位国に含まれる中国である。

順位	アメリカ合衆国(ウ・A)		日本(イ・B)		中国(ア・C)	
1位	カナダ	20,723,322	中国	9,594,394	香港	80,500,736
2位	メキシコ	18,324,927	韓国	5,584,597	マカオ	26,789,348
3位	イギリス	4,779,997	台湾	4,890,602	ミャンマー	12,421,753
4位	日本	3,752,980	香港	2,290,792	ベトナム	7,948,664
5位	中国	2,829,970	アメリカ合衆国	1,723,861	台湾	6,134,236
6位	韓国	2,298,279	タイ	1,318,977	韓国	4,346,567
7位	ブラジル	2,104,617	オーストラリア	621,771	ロシア	2,722,571
8位	ドイツ	2,063,767	フィリピン	613,114	日本	2,676,334
9位	フランス	1,843,782	マレーシア	501,592	アメリカ合衆国	2,406,657
10位	インド	1,473,517	ベトナム	495,051	モンゴル	1,862,278
	計	79,441,595	計	31,881,357	計	162,537,900

① 各国を訪れる出身別旅行客数の上位10か国・地域(2019年)【UNWTO資料】 単位は人。

(次ページへ続く)

思考問題セクション

ジオ・トレ vol.5

第2編 第1章 資料から読み取る現代世界

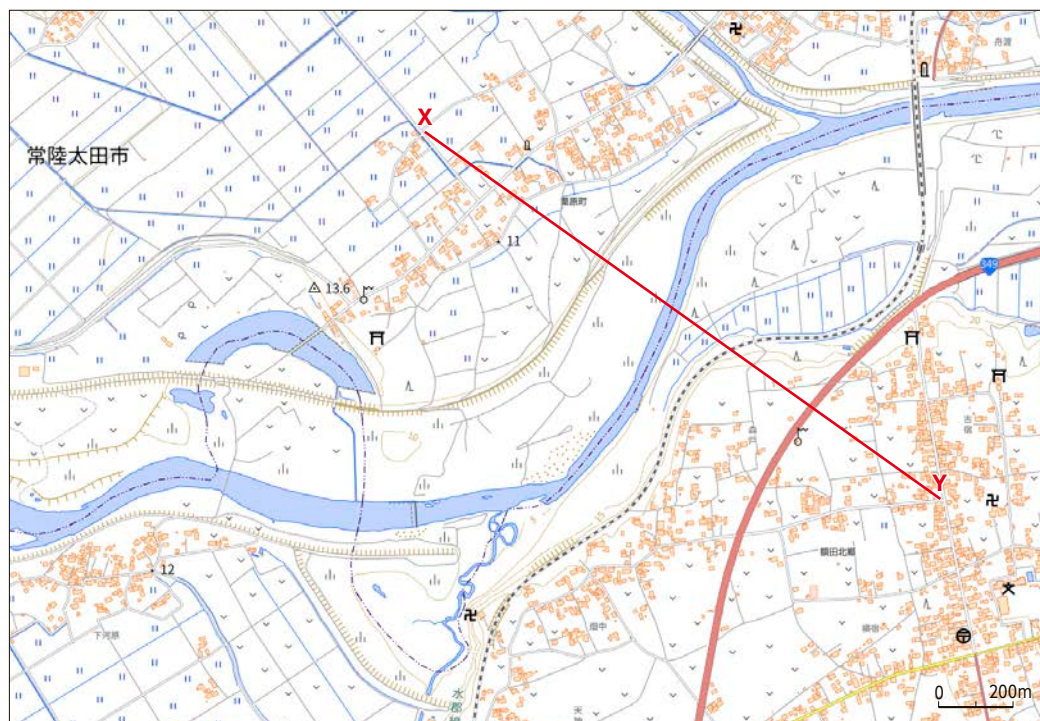
教科書 p.64～65

解答編

正答：②

図①中の西部は、河川との間に等高線がほとんどみられない低平な地形となっていることから、西から東へと流れる河川沿いに形成された氾濫原である。氾濫原では河川は蛇行して流れ、河川沿いには微高地の自然堤防が形成され、その背後には、河川とほとんど標高が変わらない後背湿地が広がる。蛇行した河川が流路を変えた際に、旧河道が取り残されて三日月湖(河跡湖)ができることもある(空欄アは「河川の蛇行」が該当する)。一方、南東部では、南北に走る線路付近に等高線が数本あることから、河川よりも標高が高い台地が広がる。図②の地形断面図からもわかるように標高30m前後の台地面となっている。

土地利用は、氾濫原の後背湿地は、水利に恵まれることから水田として主に利用され、洪水の被害を避けやすい微高地の自然堤防に集落が立地してきた。また、水の得にくい台地面は、水田としての利用は困難なため、畑などに利用されてきた。よって、図②の台地面に広がる凡例▲は、畑である。西部の氾濫原の後背湿地は主に水田に利用され、凡例●は水田であり、X地点から200mほどの場所に立地している集落は自然堤防上にあり、微高地のため、水田ではなく畑がみられる。



① 田と畑の地図記号を表示したもの【地理院地図】

思考問題セクション

シオ・トレ vol.7

第2編 第2章 さまざまな地球的課題と国際協力

教科書 p.126～129

解答編

正答：④

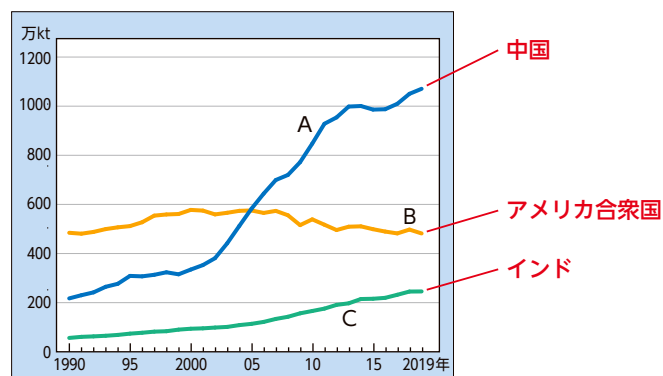
アは、一人あたりのエネルギー消費量が多く、頁岩(シェール)によってエネルギー自給率が上昇していることから、アメリカ合衆国である。図では、1990年時には最も多く、それ以降はあまり増加していないBが該当する。イは、一人あたりのエネルギー消費量がまだ少なく、バイオマスの利用が多いことから、インドである。図では、3か国のなかで最も二酸化炭素排出量が少ないCが該当する。ウは、一人あたりのエネルギー消費量の増加が著しく、エネルギー構成で石炭の割合が6割を占めることから中国である。図では、2000年代に入ってから急激に二酸化炭素排出量が増加しているAが該当する。中国やインドなどの新興国では、近年エネルギー消費量が増加し、それにともない二酸化炭素排出量も増えている。

- ア 工業も発展し自動車の普及率も高く、一人あたりのエネルギー消費量は世界的に多い。国内で頁岩(シェール)からの原油や天然ガスの生産が増加し、エネルギー自給率は上昇している。
- イ 工業化は進みつつあるが、一人あたりのエネルギー消費量は世界的にはまだ少ない。エネルギー消費では石炭や薪炭材などバイオマスの利用も多い。近年は化石燃料の輸入が増加し、エネルギー自給率は低下している。
- ウ 工業化や生活水準の向上によって、一人あたりのエネルギー消費量は増加が著しい。エネルギー消費では石炭の消費が最も多く、約6割を占める。近年は化石燃料の輸入が増加し、エネルギー自給率は低下している。

アメリカ合衆国

インド

中国



① 3か国の二酸化炭素排出量の推移【世界銀行資料】

思考問題 セレクション

シオ・トレ vol.9

第3編 第1章 自然環境と防災

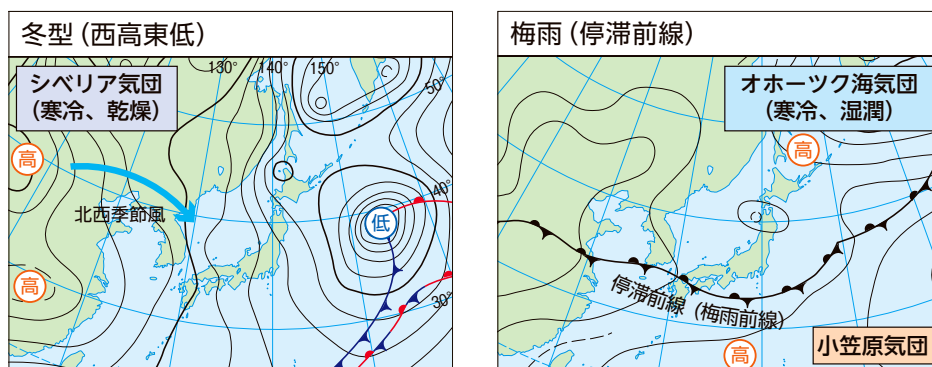
教科書 p.178~179

解答編

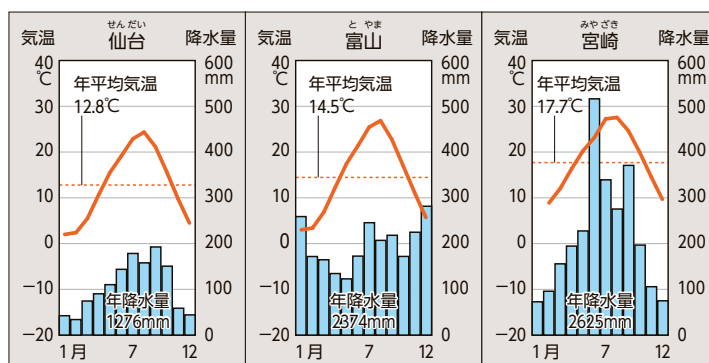
正答：①

1月の天気図は、冬の典型的な「西高東低」の気圧配置であり、ユーラシア大陸に発達したシベリア気団から吹き出した北西季節風が、日本海で対馬暖流によって水蒸気を供給され、日本海側に大雪をもたらす。よって、冬に降水量の多いアが日本海側の富山市である。一方、乾燥した季節風が吹く太平洋側の仙台市では、晴天が多くなり、降水量が少なくなるため、ウが仙台市である。

6月の天気図は、北へ拡大した小笠原気団と、オホーツク海気団などの寒帯気団との間に停滞前線(梅雨前線)が九州南部に形成されていることが読み取れる(空欄キはオホーツク海が該当する)。九州南部に位置する宮崎市は6月に降水量が多くなるため、イが宮崎市である。梅雨前線は小笠原気団の発達にともない北上するため、宮崎市よりも北部に位置する富山市や仙台市では、7月の降水量のほうが多い。



①冬と梅雨の日本付近の気圧配置のモデル例【気象庁資料】



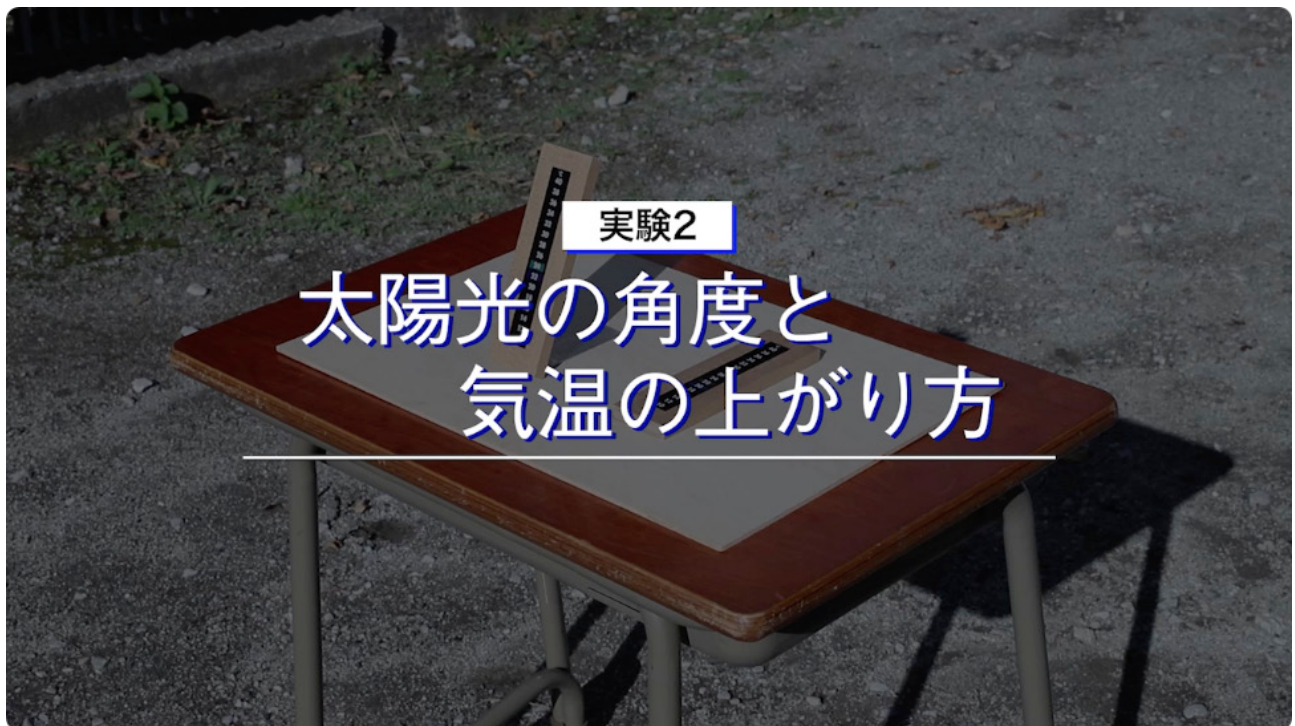
②問題に登場した3都市の気温と降水量【『理科年表2023』】

日本地図 1 都道府県界あり



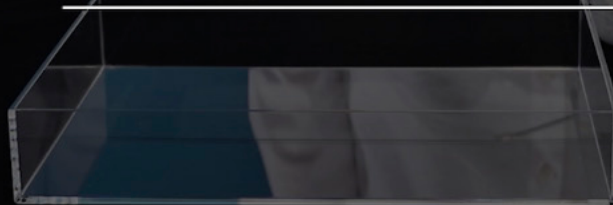






実験3

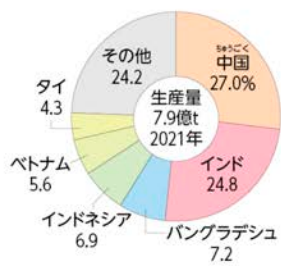
扇状地の作り方



問 1



次のグラフはどの農産物のおもな生産国を示したものか、選びなさい。



← ボタン位置
→ 切りかえ

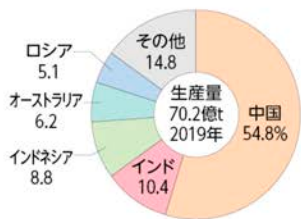
小麦

米（稲）

サトウキビ



次のグラフはどの鉱産資源のおもな生産国を示したものか、選びなさい。



← ボタン位置
→ 切りかえ

鉄鉱石

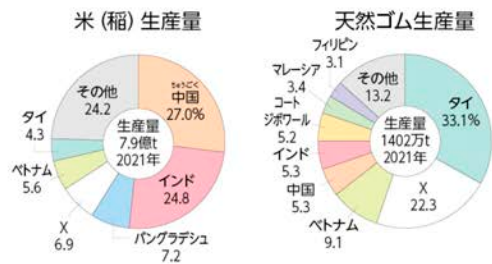
石炭

銅鉱

問 6



次のグラフを見て、Xにあてはまる国を選びなさい。



オーストラリア

インドネシア

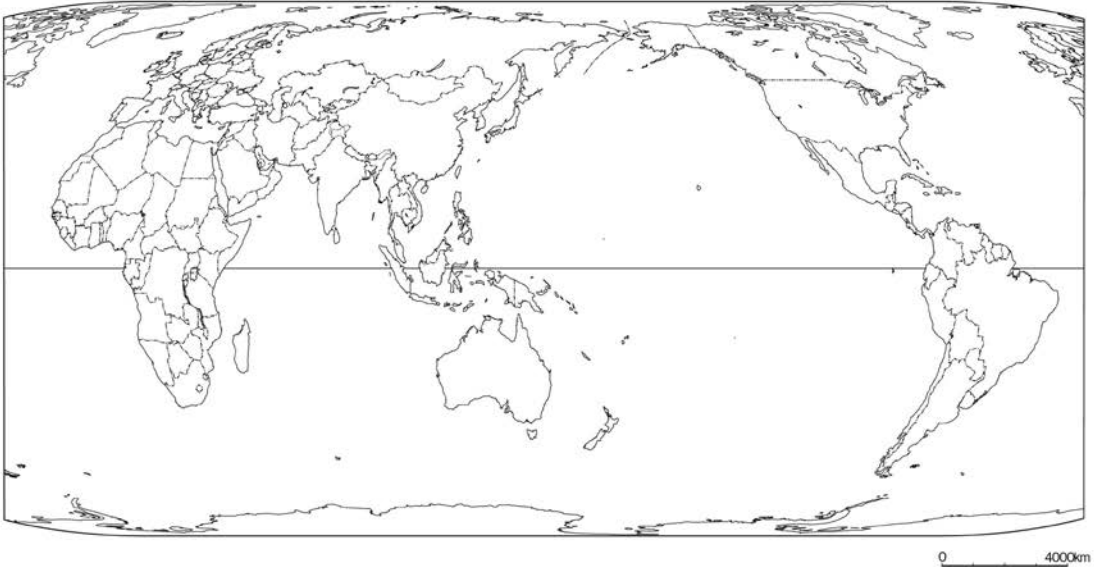
日本

ボタン位置
切りかえ

問題2/9

オーストラリア

世界全図 1 正積図法（日本中心）



GIS

リンク
地理院地図



GIS

リンク
今昔マップ on the web



GIS

リンク
重なるハザードマップ



GIS

リンク
Googleマップ



GIS

リンク
RESAS



GIS

リンク
ひなたGIS



GIS

リンク
地図で見る統計 (jSTAT MAP)



統計

リンク
なるほど統計学園



統計

リンク
日本統計年鑑



統計

リンク
日本の観光統計データ



キャリア

リンク
EduTown あしたね



➡別紙 41-1

EduTown あしたね

学校の先生へ

ご利用申込み

EduTownガイド

東京書籍

全国7000校110万人が利用するキャリア教育・職業調べサイト



ログイン



学校の先生へ



